

ピアスでおしゃれもしたいけど...

金属アレルギー 10代女性の被害急増

ピアスなどの装飾品に興味を持ち出す十代の若い女性に、金属アレルギーの被害が増加。厚生省が二〇〇〇を占め、特に二十代の「家庭用品の健康被害」女性が一八%と多いのが「病院モニター報告」で、この傾向が浮き彫りになった。水泳のゴーグルなどスポーツ用品による皮膚障害も増え、ピアスやゴーグルを巻いて汗をかくことが発症の原因らしい。

この調査は、皮膚科と小児科のそれぞれ八病院をモニターに委嘱、家庭用品による健康被害の報告をまとめたもの。九四年度は名古屋第一赤十字病院小児科、信州大付属病院皮膚科などからデータが集まった。それによると、報告件数は、ピアス(十九件)、ネックレス(十七件)、イヤリング(九件)の順。

ピアスなどの金属が汗に溶けて発症するらしく、症状はアレルギー性接触皮膚炎が大半を占める。中でも十代の女性の被害が年々増えており、全体に占める十代の割合は九二年度が六%、九三年度一%、九四年度

は皮膚科が二百八十三件、小児科が六百七十一件。原

も皮膚炎でゴーグルで発症 汗に溶け

比例し、被害も増加傾向にある。スポーツ用品の被害も目立つ。水泳やスキー用のゴーグル、ゴルフの手袋などでアレルギー性接触皮膚炎になったケースが八件も。装飾品やスポーツ用品の場合、大汗をかいた時は外すことが予防策といえそう。小児科の被害では、たばこが五一%と半分を占め、次いで医薬品・医薬部外品、おもちゃなどの順。いずれも乳幼児が誤って飲み込んだものだが、大量服用するとショック症状を起すゴキブリ駆除用のホウ酸団子を口にした例も。乳幼児のこうした事故は午後六時～十時の時間帯に集中、保護者が何気なく置いたたばこを手にするケースが多く、注意が必要だ。